

3 男女が自立し安心して暮らせるまちづくり

| 現状・課題 | 理想像 | 対象事業 | 意見 |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 相談機関として、包括支援センターが3か所あるが、あまり知られていない。 老夫婦のDVも起こっているが、認知症が絡んでいることが多く、解決することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> 異変などがあればすぐに気づくことが出来るような近所付き合いを日頃からする。 何かあれば声をあげやすい環境をつくる。 | 事業番号 42 各種在宅サービスの提供/地域における在宅介護の支援 | <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしや高齢者は見守りがあるが、その対象の年齢に達しない人の対応が難しい。 急に配偶者が亡くなった人が、その後いかにして周囲との関わりを増やすかが難しい。 包括支援センターについては、地域により身近な存在にしようという意図で3か所に増やした経緯があるが、その存在が知られていないため十分に活用されていない。さらに包括支援センターの存在と役割について周知を図る必要がある。 |
| <ul style="list-style-type: none"> シルバー人材センターの会員が少なくなっている。 老人会も入会する人が少なくなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 会員が増え、高齢者も自立し社会参加する人が増える。 | 事業番号 43 シルバー人材センター事業の支援・拡充 | <ul style="list-style-type: none"> 老人会の活動は見守りや清掃など、他の人とのコミュニケーションに有効な事が多い。 「老人会」という名称も災いしているのか、入会者が減少傾向にあるため、団体名の変更や、積極的な入会の呼びかけを通じて、入会しやすくする工夫も必要である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> アンケートなどの性別欄が男性、女性、その他と分けしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 男女で役割を区別せず、一人ひとりとして存在を認め合う。 | 事業番号 50 市報や講演会などによる性的少数者の啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 今の子どもたちは男女の区別をあまり意識していないようなので、今後改善していくと思われる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ライン、インターネットで情報が流れることが多く、危険に巻き込まれるケースも増えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい知識を持たずに危険に巻き込まれる人を減らす。 | 事業番号 52 学校における性教育を含めた健康教育の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 危険に巻き込まれないための教育が必要。 デートDVについては、鳥栖市内の一部の中学校において講習会が開催されているが、今後は全中学校へ広げることも検討されたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 介護予防教室などの参加者に偏りがあり、新しい参加者が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 参加者に偏りなく、多くの市民に参加していただく。 | 事業番号 54 スポーツ教室や健康づくり教室の開催 事業番号 55、56 介護予防教室の開催 | <ul style="list-style-type: none"> 介護（職）全般に対する社会的な理解や評価を向上させ、介護施設の職員等に対する待遇改善・報酬増額などにつなげていく必要がある。 |